

2022年8月4日

HIS 研究会

## 第13回 HIS 研究会 開催報告

開催日時	2022年6月17日(金) 18:00-20:00	
会場	リアル	法政大学デザイン工学部 T313 教室(市ヶ谷田町校舎)
	オンライン	ZOOM
参加人数	合計28名 (リアル16名+オンライン12名)	
講演者	東京芸術大学名誉教授 須永剛司 氏	
テーマ	情報のデザインから社会の形づくりへ	

今回の HIS 研究会は、リアル会場の様子をオンライン会場にも配信し、ハイブリット形式での開催となりました。多数の方にご参加いただき、質問やディスカッションも盛大で実りある研究会となりました。ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

### 【講演概要】

デザイン課題の「技術を道具にする」のひとつ「AI 技術を人びとが利活用する道具にする」試みを題材にデザインが社会の形づくりに関わる意味を考えた。

須永氏は、現在、AI 技術を介護現場で道具に使うデザインを研究中。

当初は、介護の業務フローを AI に学習させ、介護現場の知識の詳細化を実施した。しかし、覚えこませた業務フローは、現場の人はすでに知っているため、新たな知見は得られなかった。

改めてデザイナーとして介護現場の流れを見た時、作業と仕事の見える化に応用できると考えた。介護士自身が介護の専門性を見出す・誇れる仕組み、社会の形づくりを作る方向にした。(例：入居者の体調の記録を体のアイコン上に記録する。介護士は短時間で複数の入居者と接するので、介護者が入力しやすく、かつ、他の介護者と情報連携しやすい記録にする。)ここで AI 技術を利用し、入力された情報を元に、介護のアドバイスやコメントを介護士に提供する。介護士は実績情報を見て、介護計画を専門的に考えられるようになる。技術ありきで物事をみるのではなく、技術を使うのは、出会うべく文脈が必要だ。

デザインの役割はこれまでとは異なり、「モノのデザイン」から、介護現場のデザインのように「社会の形づくり」へ変遷している。

### 【リアル会場の様子】

